

富士宮地区労福協役員視察研修

日程：2010年11月20日(土)～22日(月)
 場所：福島県田村市都路町 ふくしま中央森林組合

森林ボランティア

主催：NPO 緑化ネットワーク
 後援：ふくしま中央森林組合



北浦さん

参加者名簿&ひと言

労福協役職名	氏名	年齢	所属団体名	参加にあたって	～顔～
会長	小林 純一	48	テルモ労組	「NPOとは、社会貢献活動とは」を体験・学習し、自ら語り部となる。	
副会長	深澤 真理	52	富士宮市職員組合	目的の主旨に賛同したので参加しました。	
副会長	佐藤 展彰	46	静教組富士支部	この体験から、自分に何ができるのかを考えたいです。	
副会長	和田 安弘	46	日本プラスチック労組	ボランティア活動を身近に感じられると思い参加しました。	
事務局長	篠原 秋利	55	富士フィルム労組	兎に角、楽しみ。自分に何ができるのか、体験から学びたい。	
幹事	石川 浩通	57	ニッピ労組	初の参加で、何をどうして良いのやら分かりませんので、ご指導よろしく。	
幹事	石川 昌史	35	王子特殊製紙労組 芝川支部	環境に対する体験をしてみたかった。	
幹事	金森 啓	41	東京製紙労組	重要性は解かっているつもりであるが、実際に体験し意識改革の機会にしたい。	
幹事	米山 文雄	50	富士フィルム労組 富士宮支部	自ら体験し、経験をみんなに伝えていきたい。	
幹事	佐藤 英子	60	ダスキン富士宮 互助会	環境問題が叫ばれる昨今、今自分に何ができるかを考える機会に！	
事務局次長	山本 正人	48	ろうきん 富士宮支店	「自分たちに何ができるのか」のきっかけにしたい。	

研修内容

(ふくしま中央森林組合 : 吉田昭一所長・吉田一郎課長・村松さん)

(NPO緑化ネットワーク : 北浦事務局長)

☆1日目(11/20)

ふくしま中央森林組合都路事業所において オリエンテーション



吉田昭一所長

・吉田所長より森林事業の現状について説明をいただいた。

営林署(国有林)と森林組合(私有林)・天然林と人工林の違い。
公益性と経済性の両立には長期的な視点が必要。成果に結びつくことが条件。
木の活用と環境・景観。機械の導入と自然破壊(鳥・カブトムシ・動物がいない)
里山の活用・人が管理運営していかなければいけない。etc.

当初予定では、木工キット作成を予定していたが、質問等で白熱し時間切れ。

とても残念! チクショー(金森談)

☆2日目(11/21)

田村市都路町において 針葉樹林間伐体験&里山見学



吉田一郎課長

チェーンソー使用体験

竹炭工房「美やび」見学

製材所見学

まず最初にチェーンソー使用体験。全員が吉田課長指導のもと体験。

二手に別れて針葉樹林の間伐を体験。(のこぎり・鉋での間伐)

森の中・斜面での作業は想像以上に大変であり危険である。

機械化のありがたみ。実際に女性も作業に従事している。

整備された山(人の手の入った)とそうでない山の違いは歴然。

人と自然がうまく共存できる里山がもっと増えればいい~(英子談)

竹炭工房見学では、単なる炭だけでなく工芸品・竹パウダーなど生活と環境を真剣に考え研究していることに驚き。

炭は電気を通すか? 実験には驚き。消臭効果を考えた場合(酸性・アルカリ性)どの状態の炭? を使用したら良いのか etc.。大変勉強になりました。

製材所の多くの機械に驚き。木の種類(使い道)によつての加工やなかには採算に合わない物もあることにも驚き。

☆3日目(11/22)

響きの森見学

有形文化財「渡邊家」見学



渡邊組合長

ふくしま中央森林組合の渡邊組合長が所有する「響きの森」を見学しました。

全域約20ha。7割は地方特有の雑木材(岩瀬アカマツ・自生のブナ・ナラなど) 県内屈指の植物の宝庫・室町から戦国時代の山城や土塁・木々の間からの眺望・セラピーロード・ツリーハウスなど魅力が満載の里山。

NPOふるさと森林の会・マキワリクラブなど賛同を受けた仲間により森林ボランティア活動の輪が広がっていく。

森林セラピー・植物保護・環境問題・青少年健全育成など山のもつ意味・価値は深い言葉が印象的でした。

渡邊家にも驚き。維持していくことは大変だろうと感じました。

研修風景

☆1日目:オリエンテーション



熱弁する吉田所長



里山の自然を維持しつつ、ビジネスともとらえ、ロングスパンで考えていることに驚き！
「知恵の出し合いが個人に結びつかないと、人の心は動かない」



砂漠(中国)の活動を語る北浦さん



森林組合事業所前



夜も吉田所長・北浦さんと活動を語り合い



森林の事・林業の事、初めて知る事が多かった。整備されず放置された森林が環境破壊に結びつく事を学んだ。森林整備事業への吉田所長の情熱が十分伝わってきた。素晴らしい里山の実現を期待したい。

☆2日目:針葉樹間伐体験&里山見学・竹炭「美やび」・製材所



真剣に作業を聞く



吉田課長の実演。



チェーンソー体験する小林会長。木屑で上手い下手が？

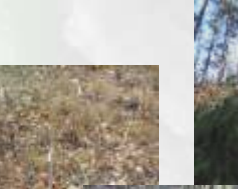


のこぎり・鉋での間伐は想像以上に大変。



里山見学

自然を残すことは必要であり、人が介在してあるべき環境を維持する里山が必要！



新しい命



バッチリ！ヤッター！



竹炭「美やび」：単なる炭焼きではなく奥深さ竹から肥料や調度品の発展系が！

☆3日目:響きの森見学・有形文化財渡邊家見学



ストレス社会の中で現代人が求める癒し。

ひとり一人の思いがないと出来ないこと。何を後世に残すのか、残していけば良いのか。今何をしなければならないのか、思いはあっても実現に移すことは難しい。



研修を終えて

	氏名	感想
	小林 純一	我々が考えている森林や山と言われるものは人口林であり、所有者が所得を得る為のもので、自然ではなく事業として存在するものであることを強く感じました。林業は国政に左右され易い産業。林業での生計が立たないため、山の維持管理を放棄し、費用の掛かることはしない所有者も増えてきている。その為、森林が破壊し、表土流出や保水機能が低下し近年災害も増えてきている。どの産業も社会公益性を持ちえているが、特に林業は「環境」「景観」「生態系」における公益性は身近に感じられるものでした。現在の林業の置かれている状況、実態を知っていただき、世論を巻き込んだ、林業という産業を考えて行きたいということもあるそうです。林業はスパンの長い事業であり、将来のあるべき姿を見極めていかなければいけない難しさも感じました。
	深澤 真理	日頃、見る事が出来ない里山や林業の体験が出来た事を嬉しく思いました。里山を保存する事は、お金がかかる事なので様々な事業を企画して、産業となるようにして、20年後また40年後にはすばらしい保存林にしてください。リタイヤしたら福島に里山を見に行きたいと思いました。色々ご指導ありがとうございました。
	佐藤 展彰	「林業」=廃れつつある産業というイメージが覆されました。これからの林業を生み出すべく努力されている皆さんに、心からエールを送りたいと思います。
	和田 安弘	自然相手の仕事で、取り組み結果が短時間で分からない為、自分の場合であればモチベーションの維持に苦労すると思いました。
	篠原 秋利	知らない!でも知らなければならぬことが直ぐ近くにある。私達の生活が便利になり、便利に慣れ、公平の享受が疎かになっているのではと実感レベルで感じた。自分には何が出来るのか、大きなことは出来ないかもしれないが、今後の社会貢献活動では参加者を増やし、私達の想いの賛同者をもっともっと増やして行きたい。
	石川 浩通	森林を巡って、人の生活があり、営みが、文化があるのだよ。という事を思い出させてもらった。人が生きて行く為には、未来をどう描くのか、その必要性と、今そこにある現実の積み重ねの結果としての将来像を想像する事の大切さを、考えさせられた研修でした。
	石川 昌史	これからの森林に対して、本当に考えさせられた3日間でした。本当に良い体験でこの研修に参加できて良かったです。
	金森 啓	最近の集中豪雨や台風などで木が根こそぎ崩れる光景をテレビで目のあたりにする機会が増え、山が放置され痩せてしまっているから間伐などの森林整備が必要だと思っていたが、森林組合の人達は林業という商売として植林や間伐などを行っているという大きなギャップを感じた。山も畑と一緒に採れる物が違うという事だけというのには驚いた。収益と自然の両立もまた非常に難しい問題だと思った。林業とは長期で非常に難しい商売だと改めて感じた。間伐体験をはじめ貴重な体験ができた視察研修でした。とにかく米が美味しかった。
	米山 文雄	正直言ってあんなに自然が豊かな山にさえ、自然界の生態系の崩れにより、鳥・動物が来なくなってしまっている等、一種の環境破壊が起こっている事を知り、もっと色々な人に知ってもらう必要があるなと思いました。
	佐藤 英子	未来の地球環境の為に今私達が何をすべきかを考える契機となりました。まずは「知る」事から。これが基本だと思います。余りに今迄が、無関心でした。無関心を捨て、関心を持つことからスタート!
	山本 正人	豊かな森の再生・森づくりの活動に関わる事で、環境を意識する仲間が広がる。そのために何かを伝える事ができたと感じました。

緑化ネットワークの北浦さん・ふくしま中央森林組合の吉田所長
一郎課長・村松さん〜大変お世話になりました。

結びに～

2泊3日の工程、私たちは現状の日本の森林を見ただけに過ぎないが、参加者ひとり一人は、環境と生活について、身近な問題として捉える必要性を感じた。

漠然と森林を見て、緑が綺麗ななあ～と思っていたが、実際に森林の現状を見聞きするうちに、はっきりと手の入った森林、放置されている森林を区別することが出来るようになった。このままの状態が続くと自然は私たちに土砂崩れなどの無言のメッセージを出し続ける。政治・行政がやることをしっかりやり、私たちをリードしてくれることに越したことは無いが私たちはそれを待つのか、孫子の代まで日本の風土を守り伝えて行く、今の私たちの大きな課題であると感じた。

森林を守る人、森林を利用して生活をする人、森林の副産物で生活する人、そんな日本の国民がお互いにwin-winの関係にしなければ、森林の荒廃は止めることが出来ないし、この関係が大切と実感した。

森林ボランティアはのこぎりや鉋を使い間伐をする、実際にはチェーンソー（時間短縮と人手不足のため）でやっていると聞いたが、のこぎりや鉋での急斜面での間伐は想像以上に辛い。チェーンソーも体験したが重い、切れ味鋭く一歩間違えば災害に結びつく、これを急斜面でと思うと気が遠くなる。（書くと簡単だが）

色々な体験をし、話を伺い感じたことは、画一的に間伐植林（杉・檜・ナラ・ブナetc）をしても駄目で、その土地の気候や森林本来の姿に調和した計画でなければ森林は本来の姿に戻らない、私たちが生活していく上で必要性に迫られてやってきたこととは言え、私たちの生活が普段は見えないところで確実に影響していると感じた。ただただ、森林は木があり、緑になっていれば良いは大きな誤解である。

森林の荒廃は放っておけば確実に進む。この要因は、私たちの生活環境が原因だ。森林を緑に、自然災害が起きないように、生活と環境が調和できるように、我々が出来ることは何だろう？これが帰りの車中での大きな話題だった。大きなことは出来ないが、我々が出来ることをやって行こう。そのためにはまず周りに語りかけることから始めよう。

私たちが出来ることは、ひとり一人が「自分が出来ることに一歩踏み出す」ことであろうし、そんな今後の労福協社会貢献活動でありたいと願う。



富士宮地区労福協事務局長 篠原秋利

